

# 胃・大腸内視鏡検査

消化器疾患の診断に必要な胃および大腸内視鏡検査について、武田病院院長である武田晴郎先生にお話をうかがいました。以前、環境交流スクエア（水島愛あいサロン）で水島地区の医療機関従事者向けに定期的に行われている合同勉強会「水島臨床フォーラム」で武田晴郎院長が講演された内容を主にご紹介します。

## 【胃・大腸内視鏡検査について】 武田病院 院長：武田 晴郎

当院では、胃や大腸などの消化器疾患の診断と治療を積極的に行っており、その中でも上部消化管内視鏡（食道・胃・十二指腸）と大腸内視鏡に関しては、ビデオスコープを用いた苦痛の少ない方法を取り入れて日々内視鏡検査を施行しています。新しい検査法や治療法も取り入れて行っており、その一部をここでご紹介いたします。



### 胃内視鏡検査について

胃内視鏡検査については月曜日から土曜日まで毎日、原則として午前中に検査を行っています。通常は静脈麻酔を行い、半分眠ったような状態で経口的に内視鏡を挿入します。検査後は1時間ベッド上で休んでいただく必要がありますが、現在積極的に推進している、ピロリ菌除菌療法のための内視鏡下での迅速テストの結果が出るまでにちょうど1時間かかりますので、目が覚めたころに結果がわかりスムーズに結果を聞いて帰ることができます。当院では経鼻内視鏡検査も導入しています。この方法では静脈麻酔は施行せず、検査中に自分の画像を見られると同時に説明も聞くことができます。また検査終了後は休む必要がなく、すぐに動くことができるため、検診であったり時間が限られている方には有用です。いつでもご相談に応じますので、医師または外来スタッフなどにお問い合わせいただければと存じます。

### ピロリ除菌療法

現在取り組んでいる慢性胃炎における「ピロリ除菌療法」は、現在胃内視鏡でがんや潰瘍がない、ピロリ菌感染性胃炎に対して行っているものです。開始から2年間のデータを紹介しますと、1080例の胃内視鏡を施行し、934例に慢性胃炎を認めました。575例の方にピロリ菌迅速テストを行い、208例にピロリ菌感染を認めました。そのほとんどの方にピロリ除菌療法を行い、一次除菌で69%、二次除菌で86%の方が除菌成功しました。この4月からはさらに新しい除菌治療薬が登場しており、成功率の向上が期待されます。除菌が成功することで将来の胃がん発生率が低下することが証明されていますので、まだピロリ菌感染の有無がわかっていない方は胃内視鏡検査を受けることをお勧めします

#### 【胃内視鏡検査実施報告】

内視鏡検査数	: 1080 例
内訳 慢性胃炎	: 934 例
胃潰瘍	: 26 例
十二指腸潰瘍	: 15 例
がん	: 13 例 など

- ◎ 慢性胃炎に対する  
迅速ウレアーゼテスト実施数：575 例  
→ ピロリ菌陽性：208 例
- ◎ ピロリ陽性者への除菌療法 成功率  
1次除菌成功：69%  
2次除菌成功：86%

## 大腸内視鏡について

大腸内視鏡は通常午前中に経口洗腸剤を内服し、大腸がきれいになったのを確認後、午後に検査を行います。検査は鎮痛剤や鎮静剤の注射をする前処置を行っており、苦痛のない内視鏡検査を目指しています。私が武田病院で勤務を開始して 20 年以上になりますが、毎年 200 例以上の検査を実施し、20 例以上のポリープ切除術を施行しています。大腸ポリープは遺伝子変化により癌化することが示唆されており、5mm 以上のポリープはがんの可能性があるとわれています。ポリープを切除することによりがん発生を予防できると考えられるため、当院では積極的にポリープ切除を行っています。さらに新しく安全なポリープ切除方法も開発されており、今後も積極的に取り組んでいく方針です。当院では消化器内視鏡専門医 2 名と消化器内視鏡技師 3 名が中心となって、日々安全で確実な内視鏡検査を施行しています。また、検査時間や大腸内視鏡の前処置方法については、患者さんのニーズや病態に合わせた方法を提案させていただきます。いつでも医師や看護師など、当院スタッフにお気軽にお問い合わせください。

## ABC 検診：胃がんの危険度チェックできます

当院では 2 種類の血液検査によって“胃の健康度”を調べる「ABC 検診」を受けることができます。

胃がんはピロリ菌による感染症由来のがんです。ABC 検診は「ピロリ菌感染の有無を調べる検査（ヘリコバクター・ピロリ抗体検査）」と「胃炎の有無を調べる検査（ペプシノゲン検査）」を組み合わせ、胃がんになりやすいか否かをリスク（危険度）分類するものです。

		ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	
		陰性	陽性
ペプシノゲン検査	陰性	A タイプ	B タイプ
	陽性	C タイプ	

**ペプシノゲン検査**：胃粘膜の萎縮具合を調べる検査です。萎縮が進んだ胃はがんになりやすいといわれています

**ヘリコバクター・ピロリ抗体検査**：胃がピロリ菌に感染していないかを調べます。ピロリ菌は胃粘膜にダメージを与え、さまざまな病気の引き金になると考えられています。

ABC 検診は「がんを見つける検査」ではありませんが、ひとりひとりの“胃の健康度”を調べることで、胃がんになる危険度が高い人には内視鏡などによる定期的な検査を進めることが可能になります。2 つの検査結果を組み合わせ、3 つのタイプに分類します（上表参照）。

**A タイプ**：健康的な胃粘膜

**B タイプ**：胃および十二指腸潰瘍などに注意

**C タイプ**：胃がんなどの病気になりやすい状態

胃の病気のかかりやすさは、**A < B < C** の順です。  
**C タイプ**の人は定期的な内視鏡検査を受けることをおすすめします。

## いつでもご相談を

当院で胃の内視鏡検査でピロリ菌判定をした方のうち、約 40%がピロリ菌陽性というデータがあります。ピロリ菌陽性であった人全員が胃潰瘍や十二指腸潰瘍、慢性胃炎と診断されました。その後は投薬治療にてみなさん除菌治療を完了しています。ただし、除菌をしても胃がんのリスクはゼロではありませんので、毎年の内視鏡検査を受けるように指導しています。胃の調子が悪い人や、ピロリ菌感染や胃がんが心配な方は内視鏡検査をおすすめします。主治医または外来スタッフへお気軽にご相談ください。